



医療安全通信 第76号
Vol. 12-3

金沢医科大学氷見市民病院
医療安全小委員会
2019年11月30日発行

回覧															

令和元年度 医療安全推進週間 2019年11月24日(日)～11月30日(土)

厚生労働省では、平成13年から「患者の安全を守るための医療関係者の共同行動(PSA)」と命名し、医療安全対策に取り組んでいます。本院もこの運動に参加しています。今年度の医療安全週間は令和元年11月24日(日)から11月30日(土)までとなっており、医療安全標語の募集、医療安全パンフレットの外来患者への配布、氏名確認ポスターの更新を行いました。

エントランスホールに医療安全標語応募箱を設置し、患者さん及び職員から院内掲示用の医療安全や感染予防対策に関する標語の募集を行いました。医療安全パンフレットは当院を受診された患者さんに配布をし、当院を受診頂く際の注意点や各種窓口の案内を周知するために実施しました。また、医療安全パンフレットにも記載しておりますが、患者誤認防止の取り組みの一つとして、氏名確認ポスターの更新を行います。安全な医療を提供するための第一歩として、診察、検査、手術、投薬の都度、お名前を名乗って頂くことにご協力いただくためのポスターです。



医療安全標語募集案内と応募箱

皮膚・排泄ケアリンクナース会の活動紹介 褥瘡専任ナース

皮膚・排泄リンクナース会の活動を紹介します。私達は毎月1回、第2木曜日に皮膚科医師を中心にリンクナース、薬剤師、管理栄養士、リハビリ担当者が集まり院内の褥瘡保有者のラウンドを行っています。ラウンドでは、治療状況・栄養状態・ポジショニング・マットレスの選択・除圧が適正に行われているかなどを検討し、ラウンド結果は病棟でスタッフに周知を図れるよう電子カルテに記載しています。今年度中には褥瘡ラウンド報告として全病棟に周知出来るように可視化し、情報共有出来ればと考えています。その他ラウンドは、褥瘡診療計画書に追加項目になった、スキンテア(皮膚裂傷)の方や拘縮が強くてポジショニングに困っている方、褥瘡が皮膚潰瘍かわからない方など褥瘡保有者でなくてもラウンドしますので、何かお困り事がありましたら皮膚・排泄リンクナースまでお知らせください。また、排尿ケアチームと共同し、排尿自立支援を目的とした活動も行っています。現在5階東病棟のみの実施ですが、今後拡大していく予定です。皮膚・排泄リンクナース会の今年度の目標は「リンクナースとして自覚を持ち部署において中心となって褥瘡予防ケアに取り組む」です。病棟毎に病棟目標を立案し目標達成に向けて活動しています。みなさん自分の病棟の目標を知っていますか？今後も褥瘡発生予防、早期発見・早期治療にご協力をお願いします。また褥瘡が新規発生した場合はインシデント入力が必要です。発見者として報告して頂く事になっていきますのでよろしくお願い致します。

ましたら皮膚・排泄リンクナースまでお知らせください。また、排尿ケアチームと共同し、排尿自立支援を目的とした活動も行っています。現在5階東病棟のみの実施ですが、今後拡大していく予定です。皮膚・排泄リンクナース会の今年度の目標は「リンクナースとして自覚を持ち部署において中心となって褥瘡予防ケアに取り組む」です。病棟毎に病棟目標を立案し目標達成に向けて活動しています。みなさん自分の病棟の目標を知っていますか？今後も褥瘡発生予防、早期発見・早期治療にご協力をお願いします。また褥瘡が新規発生した場合はインシデント入力が必要です。発見者として報告して頂く事になっていきますのでよろしくお願い致します。



褥瘡ラウンドの様子

2019年度 第2回医療安全研修会 医療安全委員会主催

令和元年10月4日(金)金沢医科大学氷見市民病院 6階多目的ホールで、第2回医療安全研修会が開催され院外参加者13名を含む256名が参加しました。「患者・家族とのコミュニケーション」と題してSOMPORリスクマネジメント株式会社の北本渉先生にご講演いただきました。患者さんの疑問に答える質問は医療者側の態度や質問の仕方に大きく左右されるため、患者さんの理解度にあわせた言葉を選ぶことの大切さについて解説いただきました。講演の中では、ビデオ映像で、患者さんの問診について良い例、悪い例を見ていただき、感じたことをアンケート用紙に記載して、参加した職員の理解度を確認しました。ビデオでは、診察室での医師と患者さんのやりとりを例に、患者さんの顔を見ずにパソコンばかり見ている医師や問診票も見ずに患者さんの病状を質問している医師が登場し、受講者に改善すべき点の意見を出してもらいました。受講者からは「患者の思いを引き出せるよう、今日の講義を意識してコミュニケーションを図ろうと思いました」という感想がありました。



講師 北本渉先生



MRI (核磁気共鳴装置) 磁性体探知機の導入 中央放射線部

全国的にMRI(核磁気共鳴装置)の検査は年々増加傾向にあり、それに伴いMRI室内への金属の持込み・吸着事故が増えています。その対策として今回新たに導入したMRI用磁性体探知機を紹介します。金属は、大きく分けて磁石に近づけるとくっつく物、くっつかない物、反発する物に分類できます。探知機には様々な種類がありますが、よく目にする空港にある探知機は、すべての金属に反応します。今回導入した探知機は、磁石にくっつく物にのみ反応します。特徴としては、大きな金属は勿論のこと小さな金属(ヘアピン留め)のようなものも反応・検知しますが、残念ながらペースメーカーや骨に埋め込んだ金属などの体内金属には反応しません。そのため、正確な検査を行うためには事前に問診表を取ってもらうことが重要ですのでご協力ください。当院で吸着事故はありませんが、新たに導入した探知機を駆使し、より患者さんが安心・安全に検査できる環境を確保した上で検査を受けていただけるように日々邁進していきます。



MRI 磁性体探知機

お名前を名乗っていただきありがとうございます。
当院では、患者さんの誤認を防止するために診察や処置・検査、注射やお薬をお渡しする前などに**お名前をフルネームでお伺い**しています。安全を守るため、ご理解ご協力をお願い致します。